

(別記様式)

令和4年度 京都府立中丹支援学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(計画段階・実施段階)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点
<p>学校教育目標 ～いどむ つながる かがやく～ ・主体的に学ぶことも含め、未来に向かって挑戦してほしい ・いろいろな人とともに歩んでほしい ・幸福な生き方をつくりだすことで自分らしい輝きを増してほしい</p> <p>このような児童生徒を育てるために、小・中・高の系統性を持たせた指導にあたる。 小学部では基礎となる力を身に付ける「基礎・意欲」を大切に、 中学部では身に付けた力を広げる、深める「発展・可能性」の段階へ 高等部では自立や社会参加に必要な力へと高める「統合・個性」へと発展させていく。</p>	<p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none">・年間通して一人一人の職員が危機管理意識を持つよう研修に取り組んできた。アレルギー対応や緊急時の対応等、一定身についたと思われる。 ・新型コロナウイルス感染症に関しては、国や府からの通知の周知や、また本校における対応について共通理解を進めながら行ってきた。・各学部で授業研究会を重ねることで授業改善が進んだ。 ・GIGAスクール構想とも関わり、小・中学部においてもICT機器を効果的に用いた学習が増えた。 ・高等部における地域の方との門松づくりや、重度生徒が製作したケーキ皿を地域のケーキ店へ提供すること、中学部における校区の施設見学等、地域とのつながりを意識した取組をすすめることができた。・コロナ禍ではありながら、リモートを用いた研修を行うことにより様々な分野の専門家のお話を聞くことができ専門性向上につながった。 ・地域のニーズに応じた相談活動を実施し、地域の支援力向上に寄与することができた。働き方改革推進会議よりアンケートをとり、業務のどのようなところに多忙感を感じるのかを把握することができた。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none">避難訓練が「訓練のための訓練」になっている側面もあるので、今後はより臨場感ある訓練方法を検討していく。単に授業の中でICT機器を用いるだけでなく、何のために用いるのか、用いることで児童生徒の学びがどう変わるのかを検証して用いるようにしていく。教職員の多忙感の把握はできたが、それを解消する手立てまで講じることができなかった。	<p>引き続き感染防止対策を徹底するとともに、教職員一人一人が小さなことも見逃さない危機管理意識をもって学校・学部・学級運営にあたる。</p> <p>○学校経営</p> <ol style="list-style-type: none">働き方改革の推進 超勤削減と、教職員の働きやすい学校環境を構築する。学校運営協議会の活用 学校運営協議会を効果的に活用し、地域とともに歩む学校を目指す。 <p>○教育活動</p> <ol style="list-style-type: none">12年間の系統性のある教育課程の編成 障害特性に応じた指導の充実と、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を目指す。地域との連携 地域の関係機関との連携を強化し、体験的な学習や職場体験・実習の機会拡大等を図り、児童生徒の力や可能性を積極的に地域に発信する。ICT機器の有効活用 一人一人の特性に応じてICT機器を効果的に活用し、実生活で生きる学習指導を充実する。